

木村工機

—では新しい年、二〇二一年に向けた事業展開についてお話し下さい。

「自然力と部品技術力を結集した、冷温水式十空落HP式放射熱流換気空調システム『ベストエアフロー』を、オフィスビル、学校、病院、大店舗向けに提案してまいります。



代表取締役社長

木村 恵一氏

行い、衛生的環境と快適性の向上を実現します。新開発の排気／還気吸込のない快適な空調を実現。口で室内空気全体を集中吸込み処理。還気のうち三〇%の低負荷にも対応する。十三度の低温送風

ことこの課題を解決し、在り方も変化してくるものと思えます。新しい年の取り組みは…。「近々セパレートタイプの外調機を発売します。今までは上から吹出して上を吸い込んでいたのですが、

加湿・換気を重視した空調

空調というのは、言わば自然との闘いです。自然との闘いには自然力を利用するのが一番スムーズです。この場合の『自然』とは、風を使わない放射熱を指します。

「加湿」「換気」の三つを

菌・不活性化します。これにより、ドラフト感のない快適な空調を実現し、加湿と換気、さらには空気清浄もしっかりとやることが出来ます。この新回収外調機で熱交換し排気しますが、これはビル管理法による『回換気』時に相当します。また、新開発のエアクリンチャンバは、各種フィルタでエアロゾルを捕集し、LED紫外線ランプで細菌やウイルスを殺す。水の温度差を△10℃に

とることや、70と30の比率に分けた二つの回路からなる『分流コイル』により、三〇%の低負荷にも対応すること、十三度の低温送風

「放射熱流換気空調システム」では、マンション&医院、老人ホーム、保育園向けの『ベストエアフロー』の開発を進めています。いずれも「放射」と「加湿」と「換気」の三本柱を盛り込んだ製品となります。—では、新年の抱負を

「これからの空調は、風を使うものから放射へ変わってくるのは確かです。誘引・再熱に加え加湿と換気